

「鴻溝城裡謫遷客」の詩碑

こう こう じょう り たく せん の きやく

の詩碑

この詩碑は、JR近江高島駅の西
山手の瑞雪神社に建てられています。
詩の作者は、江戸時代の終わりの頃、
北方を探検した英傑 近藤重蔵（1771～1829）です。

では、なぜ重蔵の詩碑が瑞雪神社
に建てられているのでしょうか？

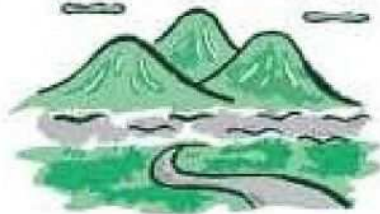
その経緯を次に述べます。

近藤重蔵は、江戸の町与力を勤め
ている近藤守知の次男として江戸駒
込町に生まれます。幼児から神童と
言われ、天明8年（1788）17歳
にして同学の士を募り白山義塾（私
塾）を開きます。その後、寛政10
年（1798）28歳の時から文化
4年（1807）37歳にかけての約
10年間に、北方クナシリ、エト口
フ島などの蝦夷地を5回に渡り探検
し、高田屋嘉兵衛らとともにエト口
フ島で漁場を開いて開発に努めまし
た。また、同島に「大日本恵登呂府」
の標柱を建てました。

のち、幕府の紅葉山文庫の書物奉
行に抜擢され、11年間勤めています。
しかし、幕府の要人と意見が合わず
左遷され、更に長男富蔵が起した
隣家の者7人の殺傷事件に監督不行
届責任を問われ、文政9年（1826）、
近江の大溝藩分部左京亮光寧
にお預けの身となったのです。

そして、大溝藩における重蔵の生
活は、困難であつたろうと想像させ
るが、幽閉中でも勉学に励み、近江
の植物についての『江州本草』30巻
を著したと伝えられています。

文政12年（1829）6月9日に



59歳の生涯を終
えました。しか
し、幕府の検死
が7月16日に行
われたので、そ
れに合わせるた
め、死亡日は6
月16日とされて

重蔵翁詩碑



います。

一方、息子の富蔵は明治13年（1880）罪が解かれ、父重蔵の眠る大溝雪神社に墓参しています。

明治37年に始まった日露戦争以後
北方探検に尽くした重蔵の功績が高
く評価され、脚光を浴びます。明治
44年（1911）9月15日に、北方
探検の功によって明治政府から正五位が贈られて以来、有志の手で墓所が整えられてきました。そして今日、

編集後記

水をたたえた田んぼを走る
田植え機の音、グラウンドを
かけまわる子どもたちの声、
そして、五穀豊穡を祈る祭ば
やし。皐月は賑やかさと目に
まぶしい緑に包まれます。田
植えや祭に帰省される方も多
いこの時期は、一瞬、高齢化
率も下がりますね。ふるさと
高島を愛する方がいてこそで
す。地方税法の改正で「ふる
さと納税制度」がスタートし
て1年。初年度にあたる平成
20年度は、全国から総額で
546万円をご寄付いただき
ました。京都新聞社の調べに
よると滋賀県で1位だとか。
感謝に堪えません。ふるさと
へのエールをしっかりと受け
止め、一円、一縁を大切にいた
します。（広報担当〇）

高島歴史民俗資料館では、6月
3日（水）から同顕彰会の協力を
いただき、「近藤重蔵翁展」を開
催します。ぜひお越しいただき見
学してください。

*「鴻溝城」とは、大溝藩の陣屋を指す。

（文化財課）

地元の有志による「近藤重蔵翁顕彰
会」が法要や、遺品・墓地の管理な
どを行っています。その一環の事業
として、昭和62年（1987）11月
7日、重蔵が詠んだ詩の一節「鴻溝
城裡謫遷客」、罪をこうむって大溝
藩にお預けの身であるという意味の
言葉を刻んだ詩碑が、作家徳永真一
郎氏の揮毫により、瑞雪神社の庭の
一角に建立されました。



資料館見て歩き

チヨロリ・ロクロ・人形

本市には、北からマキノ資料館・朽木資料館・高島歴史民俗資料館の3館が、それぞれ地域の特色を持ちながら施設運営をしています。ここでは、各館のミニ展示説明をします。

◆マキノ資料館

同館を入ると、左手に民家の居間のジオラマ展示があります。囲炉裏を挟んで、じっちゃんとおまごぼんが楽しそうに語り合っています。囲炉裏を覗き込むと、巻貝の形をした一握り大の陶器が目にとまります。その器は、チヨロリ・ハイドックリ・ハトカン（鳩燭）と呼ばれています。一度、ゆっくりとご覧ください。



▲マキノ資料館
(☎27-1484 休館：月・火)

◆朽木資料館

同館には、昭和59年3月30日付で、滋賀県指定有形文化財として指定された「朽木の木地屋用具と製品」が、大切に保管されています。今回、木地屋用具のなかの、手挽きロクロが有志の方々によって復元されました。そのロクロを2月から展示をするのになっています。



▲朽木資料館
(☎38-2339 休館：月・火)

◆高島歴史民俗資料館

3月には、恒例になりました古雛展を開催したいと思っています。市内の方で、古雛を保有され、今回、同展示に出陳していただける方がございましたら、高島歴史民俗資料館へご一報いただきますようお願いいたします。



▲高島歴史民俗資料館
(☎36-1553 休館：月・火)

編集後記

毎年この時期は、1年間を振り返り、それぞれの瞬間を切り取って短い表現に納められた「今年の〇〇」というのが発表され、話題にあがります。そのジャンルも漢字や四字熟語、川柳や百人一首など多彩。社会風刺やユーモアにも富んでいて、時々世相を反映しているそれらに、想像を掻き立てられ、思わずうなずき、ニヤリとしてしまいます。2009年の「今年の漢字」は「新」。新しい年を迎え、希望を持って新たな一歩を踏み出したいものです。それには「一年の計は元旦にあり！」といわれるように、何事もまず初めに計画を立てることが大事。そう意気込み、新年の抱負に「ダイエット！」と掲げるにも、箸を右、ビールを左に携えるこの時期は、自ずとタイミングを逸してしまいますね。（広報担当〇）



▲マキノ資料館のジオラマ展示



室町時代の多彩な茶道具が出土

西万木遺跡の発掘調査

西万木遺跡は、安曇川町西万木に所在し、平成20年度に大型店舗建設に伴い発掘調査を実施しました。調査の結果、中世後期の在地領主層の屋敷地が発見されました。屋敷地は堀（区画溝）と土塁をめぐらせるもので、その規模は半町（54・5メートル）四方を測ります。出土した土器類から屋敷の機能していた時期は15世紀後半から16世紀前半頃を中心としたものでした。

出土した遺物には当時「唐物」と呼ばれ珍重された中国明代の双耳長頸瓶（銅製の花瓶）や、高麗茶碗（朝鮮王朝陶磁）などの舶載品をはじめ、茶入・茶碗・天目茶碗・茶臼・風炉・香炉など多数の喫茶関連遺物が出土しました。銅製花瓶は遺跡からの出土事例がほとんどない珍しい遺物で、屋敷において仏具もしくは書院等の座敷飾として用いられたものと

考えられます。

高麗茶碗は16世紀代の茶会記（茶湯日記）に頻繁に登場する器ですが、県内では小谷城や安土城下町遺跡など守護クラスの城郭や城下町など遺跡でしか出土していない珍しい遺物です。このような出土品から西万木遺跡の屋敷の主は、当時京の都で流行していた、喫茶の趣味をいち早く取り入れ、当時の室町文化の粋を身につけた人物であったと考えられます。

（文化財課）



西万木遺跡出土「双耳長頸瓶」

編集者のつぶやき

▼今号からこのコーナーを担当することになりました広報担当Sです。これからよろしくお願いします。

▼4月から新年度がはじまりました。新しい環境へ変わられた方もたくさんおられたと思います。新生活に慣れましたでしょうか。

▼今号の表紙は、4月5日（日）に高島警察署で行われた交通安全運動の出発式での1コマです。かわいいちびっこ警察官たちの元気いっぱいの太鼓演奏に元気をわけてもらいました。園児たちの交通安全の呼びかけに応えるためにも、これからも十分に注意して車を運転しようと思います。

（広報担当S）



高島の地震の史料

高島市内には、琵琶湖の西岸平野部に南北に続く「琵琶湖西岸断層」や、今津町水坂峠から朽木・京都市街へと続く「花折断層」と呼ばれる断層が存在します。近年では、過去の断層の活動状況を知るための調査が活発に行われ、いつごろの時代に、どの断層が動いて大きな地震になったのかなどが、次第に明らかになりつつあります。

また、地震が起こったことや、その被害状況は、当時の公的な記録や日記類などに多く記されることから、高島市内に残る史料にも地震にかかわる記事を見つけることができます。ここではそのいくつかを紹介してみましよう。

高島市域に大きな被害をもたらした地震としてよく知られているのが、寛文2年（1662）5月1日に起こった大地震です。この地震は、近年の活断層の調査から、



寛文2年の地震によって社殿が倒壊したことを記す瀬々杵神社の棟札

花折断層北部および若狭湾から三方五湖へ向かつてのびる日向断層が活動したことによって引き起こされたものと考えられています。

市内での被害は、花折断層に近い朽木地域で大きかったようので、朽木宮前坊の瀬々杵神社に残る棟札（建物を建てる際、工事の由緒・年月日・建築者などを記して棟木に打ちつけた札）には、このときの地震で、神社・塔・寺・家屋敷が残らず倒壊したため、その2年後の寛文4年（1664）に領主の朽木智綱が神社の再建を命じたことが記されています。また、別の史料からは、同じ寛文の地震で、朽木野尻にあった朽木陣屋が

倒壊し、隠居していた第十七代領主・朽木宣綱が、崩れてきた梁の下敷きになって亡くなったことが分かります。

またその他の市内の被害としては、勝野に残る大溝藩関係の史料から、大溝領内で倒壊家屋が1,022軒、死者が30人余りだったことや、今津町酒波の日置神社の史料から、大地震で山崩れがあり、多くの死者が出たことが分かります。このような記録から、この寛文2年の大地震は、市内の広い範囲に大きな被害をもたらしたことが想像されています。

寛文地震以外にも、『高嶋郡誌』によると文政2年（1819）6月12日に大きな地震があり、マキノ町海津・西浜や今津町今津、そして勝野などで、土蔵の壁が落ち、寺院の門や鐘楼が倒れるなどの被害があったことが記されています。なお、この時の地震では、対岸の彦根市でも大きな揺れがあったらしく、彦根藩主・井伊家に伝

わる史料には、彦根城の一部が損壊したことなども記されています。（文化財課）



朽木宮前坊の瀬々杵神社

編集者のつぶやき

天気に恵まれ、田植え日和となった5月15日、日本の棚田百選「畑の棚田」で棚田オーナーによる田植え作業が行われました。表紙はその1コマ。オーナーは都市部からの家族連れが多く、一生懸命苗を植えるお父さんの傍ら泥だらけで遊ぶ子どもたちや、子どもをおんぶしながら田植えする力強いお母さんの姿も。自分たちで汗をかいて植えたお米はきっとおいしく感じるはず。秋が楽しみです。（広報担当S）

資料館で郷土学習

市内には、マキノ資料館・朽木資料館・高島歴史民俗資料館の3つの資料館があります。それぞれに、特色を生かした展示を行っています。

マキノ資料館は、山と湖の生活文化を伝える目的で、平成5(1993)年に開館しました。館に入ると、左手に昔のくらしを再現した囲炉裏端で、おじいさんが男の子に話をしています。展示室には、稲作の今と昔・山や琵琶湖の仕事・村の行事・くらしとその道具・古代マキノの出土品などを展示しています。

朽木資料館は、朽木陣屋跡に昭和57(1982)年に開館しまし



昔の暮らしを調べよう〔マキノ資料館〕



木地師や山仕事の道具〔朽木資料館〕



石臼体験〔高島歴史民俗資料館〕

た。木地師関係をはじめ山仕事の道具・生活用具・山ノ神祭具などを展示し、併せて朽木盆・木地椀類も多く展示しています。鎌倉時代から江戸時代にかけて、この地の領主であった朽木氏の関連資料も展示しています。幕末から明治に活躍した書画家池田白鷗の資料などもあります。また、朽木陣屋・西山城をはじめ、中世から近世にかけての高島市内の城と城下の紹介もしています。敷地内には、能家集落から移築された築約百五十年の茅葺民家があり、民家内は自由に見学することもできます。

高島歴史民俗資料館は、金銅製の宝冠や杵、環頭大刀など華麗な

副葬品が出土したことで有名な、鴨稻荷山古墳(6世紀前半)の南約150メートルにあります。この資料館は、昭和56(1981)年に開館しており、3つの資料館の中では一番古い建物になります。一階の展示室には、鴨稻荷山古墳をはじめ打下古墳などの安曇川以南の古墳時代の資料を展示しています。特に打下古墳の被葬者復顔資料は、私たちのルーツの一端を知る貴重な資料です。二階展示室には、古墳時代の南市東遺跡をはじめ、下五反田遺跡・八反田遺跡など集落跡から出土した須恵器や土師器を展示しています。奈良時代から平安時代にかけては、永田遺跡・鴨遺跡の古代官衙関連出土遺物を並べています。また、市内から出土した古代寺院関連の古瓦も展示しています。近世に至っては、元和5(1619)年

伊勢上野より大溝に入封し、大溝藩主となった分部家関連史料、大溝藩にお預けの身になった北方の英傑、近藤重蔵関連の史料や東方木村(青柳)出身の馬場正通が模写した「三國丸」の模型も置いています。民俗資料としては、昭和前半のくらしを民具類の展示で再現しています。「枧」をテーマにしたコーナーでは、市内で使われ

た枧を、「京枧」を含む江戸時代の枧から明治の枧へとその変化も展示しています。枧かきの体験もできます。

来館者の中には、市内の小・中学校の郷土学習や体験学習での利用も多く、毎年好評の様子です。高島市の歴史や市内に残る生活文化・文化財の重要性を理解していただく良い機会と、歓迎しています。今年はぜひ皆さんも資料館に足を運んでみてください。思わぬ発見があるかもしれませんね。

ご利用については、同広報文化情報「ともじり」欄をご覧ください。

高島歴史民俗資料館
(36) 1553

編集者のつぶやき

正月休みに食べ過ぎたせいか、ぶくっと出てきたお腹が気になる時期ですね。今回の特集では、高島市の健診結果をご紹介しますが、なんと30代~50代の男性の約4割が肥満だそうです。▼表紙は、PTA連絡協議会主催の親子ふれあい活動のようす。親子で協力して「米粉すいとん入りばたん鍋」づくりに挑戦されました。おいしいお鍋に、思わず4杯もいただき、肥満の道へまた一歩前進してしまった私です…。(広報担当S)

遺跡を記録する

遺跡とは、広辞苑第六版による

と、「①過去の人類がのこした遺構もしくは遺物のある所。貝塚・住居跡・古墳など。旧跡。古跡。」ということ、一昔前までは、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代を調査および研究対象として考古学的な発掘調査が行なわれ、それに伴う新発見に驚いたものでした。近年では、福井市の一乗谷朝倉氏館や広島県福山市の草戸千軒遺跡（門前市場町跡）などのような中世の遺跡も調査対象として広がっており、さらに今では近代化産業遺跡や戦争遺跡なども加わって、その対象が大きく増えていく傾向にあります。

高島市教育委員会では平成20年3月に『高島市遺跡地図』を発行しました。そこには縄文時代から江戸時代を中心に、市内364遺跡が登録されています。皆さんの中にも図書館や公民館・各地区の集会所などで、見られた方もある

うかと思えます。

この春、3月19日、マキノ町海津峯山に所在する峯観音堂遺跡を、有志の方々と踏査する機会に恵まれました。峯観音は古代、養老6年（722）、越の大徳泰澄が、北陸から北近江に入り山岳仏教をこの地に広めたことから始まり、峯山に観音堂を建立し、栢の霊木から造られた観音像を納めた古刹であると伝えられています。

踏査は、海津大崎寺手前から山道を登り通称七曲りを上り、一時間ほどで式内社の大前神社に到達しました。そこからさらに登り、一時間ほどで仁王門跡に着き、さらに北へ200mほど進むと目指す観音堂跡に到着できました。当日は、雪がまだ一面に残ってましたが、奥琵琶湖や竹生島をはじめ湖北を一望できるロケーションでした。観音堂跡・大師堂跡・庫裏跡は峯山の東側を切土とし、北西に対して屏風状に稜線を残してい



大前神社

ました。峯観音堂跡で昼食を取り、さらに稜線を北に進み、その後は西に進路をとって無事下山しました。

後で聞くと、この山には熊が生息しており、実際に目撃情報もあるということなので、単独行は危険を伴いますから決してお勧めはできません。

少し前までの遺跡分布踏査では、二万五千分の一の地図に現在地を示しながら進んだものですが、今では小型のGPS機能を有するレコーダーで解析することによって、足跡を明確に復元することができ、遺跡の場所や到達するまでのルートについて、正確な資



峯観音堂跡

料作成が可能となりました。

今後もこのような機会を大いに利用して、遺跡を記録することに努めていきたいと思えます。

図文化財課

☎(32) 4467

▼表紙は、マキノ中学2年生が行った「校歌の地探訪」と題した課外授業のようす。

これまで徒歩で校歌ゆかりの海津大崎へ向かいましたが、今回初めてカメラでの探訪に挑戦。慣れないパドルさばきに苦戦する子もいましたが、無事に大崎寺近くの浜に到着し、校歌を歌われました。湖上から満開の桜並木を愛でながら漕ぐ姿は大変気持ちよさそうでした。▼今月号からロゴデザインを新しくし、市長雑記コーナーをはじめました。ぜひご覧ください。(5)

編集
雑感

広報たかしま

平成25年

5

月号
No.160

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒900-1000 滋賀県高島市新旭町北畑505番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.shiga.jp
E: info@city.takashima.shiga.jp

高島市新指定文化財紹介

描かれた冥土の王たち

平成26年3月25日、高島市教育委員会は、マキノ町海津の寺院に所蔵される「絹本着色地蔵十王図」21幅を、高島市有形文化財として指定することを決定しました。

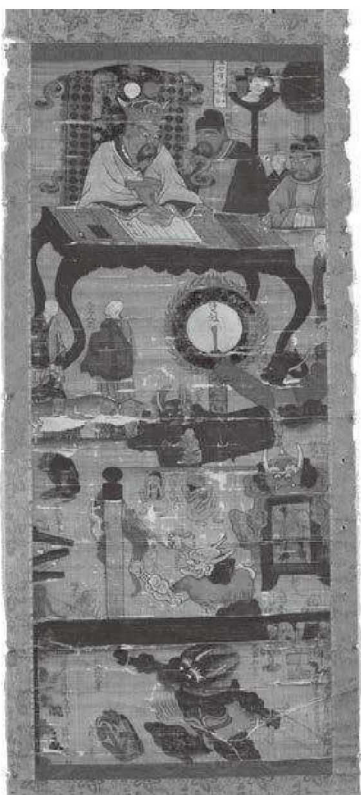
「絹本着色地蔵十王図」は、冥土（あの世）の裁判官である十王とそれに関係する地獄の場面などを掛け軸21幅に記した仏教絵画で、制作年代は室町時代（16世紀）ころと推定されています。作者は不明ですが、21幅とも目の粗い絹地に丁寧に描かれており、相当の技法を持った専門の絵師によって描かれたものと推測できます。

冥土には10人の王がいて、人は亡くなると7日ごとにこの10人の王の裁きを受けて、その処遇が決定されるといふ十王思想は、中国で生まれたもので、日本では平安時代後期以降、一般の人々の間に広まったと考えられています。



たこの思想は、死後の世界の救済者である地蔵菩薩への信仰と結びついて普及し、今回指定された地蔵十王図のように、中の1幅に地蔵菩薩を描き、あの世での救済を願うために作られたものが多いと考えられます。

十王が描かれた10幅には、それぞれ画面上部に各王が大きく表され、その下で亡者がさまざまな責め苦を受ける様子が描かれています。また、それ以外の幅には、地獄を始めとする六道の一場面や十



絹本着色地蔵十王図
(21幅のうち1幅)

王信仰と関係の深いテーマやモチーフが描かれ、恐らくは仏教の中で考えられる死後の世界を人々に絵で説明する「絵解き」のために作成されたものだと考えられます。

実際、この地蔵十王図を所蔵する寺院でも、昭和初期までは毎年お盆の時期に本堂に21幅を掛けて、集まってくる檀家や子ども達に「絵解き」をしていたということです。

十王図は江戸時代には各地で多数描かれるようになりますが、ほとんどは10人の王の絵を基本にしたもので、他の場面などを含めて21幅にもものばる掛け軸が作られ、それが完全な形で保管されているのは大変珍しいことです。今回指定された地蔵十王図は県内の博物館での展示などをきっかけに現状

を確認する調査が行われ、全国的に見ても有数の価値のある仏教絵画であることが認められました。

ただ、掛け軸は、長年「絵解き」に使われてきたことから痛みが激しく、現在所有の寺院では、この地蔵十王図の一般公開は行っていない。今後は、修理・保存方法を検討しながら、この貴重な高島市の文化財を後代へ伝えていく必要があります。

なお、絹本着色地蔵十王図21幅全点の写真パネルは、マキノ町蛭口のマキノ資料館で見ていただくことができます。

図文化財課

☎(32) 4467

編集感

表紙は、市制10周年記念として開催されたつつき鯖街道桜まつりのようす。晴天の中、満開の桜をバックに迫力ある吹奏楽の演奏などが行われたほか、屋台が立ち並び多くの方でにぎわいました。私も華やかな桜やおいしい食べ物を堪能。桜はやっぱりいいですね。10周年記念事業としては、このほか4月には映画「じんじん」の上映や、風車村桜まつりが開催されました。5月以降の予定は、7ページに記載していますので、ぜひご覧ください。(S)

広報たかしま

平成26年 5月号

№172

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
TEL:0740-11000 滋賀県高島市新旭町北畑565番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp



湖底遺跡からみる
自然の猛威

平成25年9月の台風18号による影響は、私たちの生活に大きな被害を与え、その爪痕は今もなお各所に残っています。このよう
な、自然の影響による痕跡を古代の遺跡から読み解くことができます。特に、琵琶湖の湖底に存在する遺跡は、自然の猛威による影響を色濃く残しています。

高島市萩の浜の沖合には「三ツ矢千軒遺跡」と呼ばれる湖底遺跡が存在しますが、昭和2年刊行の『高島郡誌』には次のような記述がみられます。
「鯰川は元は大三ツ矢村と称す。古、大三ツ矢、小三ツ矢とて湖辺に二村あり。大三ツ矢は船持問屋もありて、永田村より寅卯にありて葭島より百間許も沖に在りしなり。其村址は水底に石垣一町斗もあり、石橋もあり、旱水の時は五尺許の水底なり。某年今



針江浜遺跡

れ、今の湖岸から50mの沖合に、長さ約80m、幅6〜11mの石塁（石を積み上げて造った防波堤）が確認され、石塁は15世紀後半〜16世紀頃に作られた石仏や五輪塔の石材が使われていると判明しました。また、石塁から南東へ約160mの地点では、垂直に立つ角柱や木杭、立木根、石列が確認されると共に、湖底から湖岸にかけて古代〜近世の土器片が多く発見されました。遺構や遺物の年代にばらつきがありますが、これらの痕跡は大三ツ矢村に伴うものと指摘されています。

一方、新旭町針江の湖辺には、「針江浜遺跡」と呼ばれる湖底遺跡があります。現在の湖岸から約100mの沖合に形成された浜堤上に営まれた弥生時代の集落跡ですが、発掘調査により、琵琶湖の水位が上昇した痕跡や、大地震による亀裂と液状化現象の「噴砂跡」が見つかっています。稲作を始めて以来、水位の上昇や大地震といった自然の猛威に直面しながらも農耕地として利用され続けたことが明らかになってい

ます。
これら二つの遺跡が、なぜ琵琶湖の底に眠ることとなったのか、その原因は明らかではありませんが、琵琶湖の水位変化や地震による液状化などが影響していたようです。

今も昔も、自然の猛威は私たちの生活に大きな影響を与えていたことを湖底遺跡は語ります。

図文化財課

☎(32) 4467

編集
雑感

今年のGWは、一歳の末っ子が病気で入院することになり、ずっと病院で過ごしました。本人にはしんどい入院だったと思いますが、普段こんなにべったり接することもないので、私としては、よい機会になったとも思います。おかげで、より懐いてくれたような気も？今号の特集は男女共同参画がテーマ。今回のことで協力することの大切さを再認識しました。まだまだ家事などできていませんが少しずつできることを増やしていければと思います。(S)

広報たかしま

平成26年

6

月号
No.173

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒900-1103 滋賀県高島市新旭町北畑の5番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp



琵琶湖治水の先覚者

藤本太郎兵衛 親子三代



湖畔にたたずむ藤本太郎兵衛像

新旭町の夕暮原^{ゆぐれはら}に精悍^{せいかん}な表情でたたずむ姿（写真）は、琵琶湖の治水に生涯を捧げた志をしのばせるとともに、今もなお行われる琵琶湖治水の重要性を我々に訴えかけます。

人々を悩まし続けた「水込み」

滋賀県には509本もの一級河川が存在し、このうち琵琶湖に流れ込む河川は118本ののぼります。高島市内からも多くの河川や地下水が琵琶湖に注ぎ込んでいますが、なかでも安曇川は、流域面積が310km²にのぼり、野洲川に次いで2番目の面積を誇るなど、豊富な水量をもたらす重要な河川のひとつです。

その一方、琵琶湖から流れ出る自然河川は瀬田川が唯一となりま

記録も残ります。

周辺200か村の悲願!!
私費を投じ三代にわたった偉業

江戸時代以降、この水害をなくすために瀬田川の川底を浚^{しゅんせう}い（浚渫）、流出水量を拡大する治水工事の実施が、琵琶湖周辺の村々から嘆願されました。しかし、浚渫による下流域での洪水を心配した江戸幕府が着手することはありませんでした。そんな琵琶湖治水という大きな難題に、高島郡深溝村（現新旭町深溝）の庄屋であった藤本太郎兵衛が立ち上がりしました。初代太郎兵衛（直重）^{なほしげ}は、瀬田川の土砂は自普請^{じふしん}（農民自らが費用を出し合って行う工事）による浚渫の必要性があると湖岸の村々に説き、177か村の賛同を得て、天明4年（1784年）に工事を始めることができました。しかし、十分な効果を挙げることができず、二代目太郎兵衛（重勝）^{しげかつ}による老中 松平定信への直訴や瀬田川下流の村々への説得が続けられます。

そして初代太郎兵衛から満50年目の天保2年（1831年）、三代目太郎兵衛（清勝）^{きよかつ}の時に幕府

からの許可をとりつけ、瀬田川の全長14km、出役31万人、工事費7654両（約2億5000万円）におよぶ治水工事が竣工されました。この浚渫は、琵琶湖周辺200か村の悲願を達成させる大工事となり、「天保の御救大浚渫」と呼ばれ今もなお語り継がれています。

図文化財課 ☎(32) 4467

「報告」

昨年11月に国の文化審議会で選定が答申されていた重要文化的景観「大溝の水辺景観」が平成27年1月26日に正式に選定されました。

編集感

いよいよ3月。卒業の季節を迎えます。多くの人に支えられ、「学び舎」を巣立っていく子どもたち。つい、30数年前の自分に重ねて見つめてみる。取り巻く環境は大きく変わり、同時に子どもたちの数は著しく減少した。しかし、悩みながらも日々成長し、夢を膨らませていく子どもたち、子の成長を願い、導き・支える親や先生、そして彼らを温かく見守ってくださる地域の人々。“学び舎”を取り巻く人々の思いは変わらずに受け継がれているように思います。

今回の特集は、2つの小学校の閉校を取り上げました。大変寂しい現実ではありますが、それは新たな歴史への巣立ちとして捉えていきたいものです。いろんな人が集い、交流をとおして人財が育ち、やがて人々のつながりは新しい価値を生み出して更に拡がっていきます。学び舎の次なるステージの始まりです。(Y)

広報たかしま

平成27年

3

月号
と182

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒500-0166 滋賀県高島市新旭町北畑のの番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp



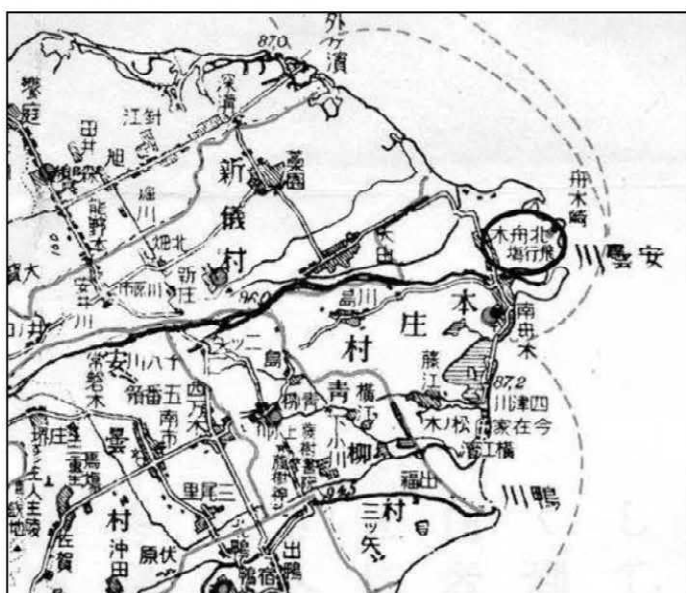
船木崎の飛行場

安曇川町北船木の現在滋賀県立びわ湖こどもの国や滋賀県安曇川人工河川となっている一帯には、戦時中、「船木飛行場」と呼ばれた飛行機着陸場所がありました。

大正9年（1920年）12月、陸軍に「航空第3大隊」が結成され、その配属地は民間の飛行場があった滋賀県神埼郡八日市沖野

ケ原（現東近江市沖野）と決定しました。この場所は八日市飛行場と呼ばれ、特に、昭和16年（1941年）の太平洋戦争開戦以降は、教育隊をふくむ複数の空陸部隊が駐屯し、多くの飛行機がこの場所から飛び立っていました。

昭和2年発行の『高島郡誌』に掲載されている「高島郡地図」の船木崎付近



この八日市飛行場から飛び立つ飛行機の途中着陸場として設置されたのが、船木飛行場です。大正11年（1922年）、陸軍の演習地で

あった饗庭野演習場で第16師団の大規模な演習が行われることになり、八日市飛行隊もこれに参加することになりました。この時に饗庭野までの間に途中着陸場所が必要ということで、官有の草生地と民有の畑地等が広がっていた船木崎が着目されました。

第1期工事では、高島郡から在郷軍人、青年団員、地域住民等3,500人が動員され、軍隊の指導のもと、約3万坪の土地が東西南北に十字の形に整地されました。その後、第2期・第3期工事では、旧河川堤防の切り取りや桑畑の整地が行われ、1期工事と合わせて約7万坪の飛行場が完成しました。

船木飛行場の完成後は、年3回の饗庭野での陸軍演習に参加する飛行機のため、仮格納庫も建設されました。

太平洋戦争末期、昭和19年（1944年）から翌年20年までは、海軍予科練習生のグライダー飛行訓練場となり、練習生たちは北船木の三寺院に分宿して訓練を行いました。この間には、グライダー格納庫が米軍艦載機グラマンの機銃掃射を浴びたこともあった

といえます。戦後、飛行場は閉鎖され、跡地の多くは開墾されて、サツマイモ畑として活用されました。その後は県に買い上げられ、「滋賀県青少年レクリエーションセンター」、さらに「滋賀県立びわ湖こどもの国」となり、現在に至っています。

【参考文献】
「高島郡誌」、「安曇川町史」、「南船木史」

図文化財課
☎(32) 4467

編集後記
夕食を食べていると、口の中でガチリと硬い感触が。なんと、歯の詰めものがとれていました（ToT）。歯医者へ行くと他にも虫歯があるとのこと。しっかり歯磨きをしているつもりだったのに…残念。治療のためしばらく通うことになりそうです。先月号の記事ですが、「親子でいい歯コンクール」は、親も子もよい歯でないと出場できないとのこと。改めて、出場された親子に感服です。いつまでもよい歯を守ってくださいね。（S）



広報たかしま

平成27年

8

月号
No.187

発行▼高島市
〒500-1-0001 滋賀県高島市新旭町北畑560番地

編集▼政策部秘書広報課

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp

